

甲南中学・高校  
図書館  
図書委員会  
芦屋市山手町  
31番3号

# 読書三昧

第73号  
平成16年3月12日  
高2E 伊木勇人  
中3A 富永光則

## 一年、また一年と甲南の羽は飛んで行く。

### 活動報告 図書委員文化祭

### 今年度の図書委員の活動

# 来年も一致団結してがんばる！

古本市に至るまで  
高一C 西尾裕亮

僕達、甲南図書委員会は、文化祭で古本市をするため、また暑い9月半ばにその準備を始めました。

まず、古本市をするためには本がなければならぬので、それを集めるために図書委員を3つに分けそれぞれ、実際にポスターの作製等を行う作業班、その企画を行う企画班、そして、集まった本を管理・整理を行う管理班とし、それぞれ作業を行いました。

また、プリントでは、ポスターよりも詳しく説明を入れました。

次にはプリントを全校生徒に配り、ポスターを図書館・掲示板等校内に掲示し、持ってきて貰った本を入れてもらう為に回収箱をつくり、図書館と教員室入口に置きましました。

しかし、最初は本が集まらず、そのため2学期中間審査後にもつ一度古本回収のプリントを配り呼びかけた結果、本が集まってきました。

そして、文化祭に向けてパネル搬入を行いました。パネルの搬入後、まず最初に教室内の掲示物を取り外し、机・椅子を並べて、古本市のおおまかな形を作り、回収した本を保管していた場所から教室移動させました。ここで本を論議や買ったのが、本をこのようにして並べるか、というところでした。まず第一にお客さんが見やすい並べ方

をしようというところでダンボール箱を使って棚を作り、背表紙を上にして小説文庫・小説ハードカバー・漫画等種類別、そしてその中で五十音順に並べました。

また、ここで本が予想よりも多く部屋が狭く感じるといふことで、パネルを動かし部屋を広くしました。校内文化祭ギリギリまで見やすく、面白い古本市になるように掲示用ポスターをパネルにはったりしました。

文化祭の朝、最後に本を整理し直して文化祭本を古本市を通して  
高一C 太田佳宏

古本市の店員として  
古本市の店員として人が来なければどうしようというつまらない不安は、開店と同時に消え去りました。開店したとたん、人が流れ込んできました。一冊目の本が売れた時は、とてもうれしかった。

たです。そして、次々に本は、売れていきました。お客さんの中には、一度に10冊以下買っていたくれる人もいました。

また、写真を撮るだけの先生もいました。できれば、買って欲しかったです。

困ったお客さんもいました。漫画を立ち読みして、買わずに帰るといってお客さんです。よく考えてみると、僕が本屋としてちゅうしていることでした。

僕は、この時始めて本屋の人の気持ちが変わりました。「本屋で読むなら買って帰って家で読んでくれ」と思わず言いそうでしたが、自分もよく同じことをやっているのだと思うと、注意できませんでした。

幼い子供連れのお客さんは、絵本をたくさん買っていました。子供は、学生よりも礼儀正しいお客さんでした。「どうもありがとう」と、ただ本を渡したただけなのに

に言うてくれた時にはうれしかったです。あの子供に買ってもらえたあの絵本は、とても幸せだと思えました。最近の生徒は、本来言わなければならないことができていないと思えました。

人の波は、途絶えることなく、文化祭が終わるまで続きました。次から次へと皆さんから提供された本が売れていきました。その買われていった本は、幸せだと思えました。その本は、そこで新たな人生を歩むことしよう。

しかし中には、売れ残った本も多数ありました。その本は、すべてBOOK OFFに引き取ってもらいます。本達は、そこでまた違う新たな人生を歩むことしよう。

すべての作業が終わった時、とても心地よい気分でした。店員をした僕は、おしいと取りだしたかもしれないけれど、この古本市は、図書委員の皆が本を提供してくれた

皆が本を提供してくれた

活動報告

図書委員研修会

今年の会場は小の林聖心女子学院でした。白を基調とした潇洒(しよさう)な校舎で、その所々に聖像が置かれていたのが印象的でした。知って

昨年(2004年)の六月十一日私達は図書委員研修会に参加してまいりました。会場校紹介

図書委員研修会レポート 高一E 伊木勇人

皆さんのおかげで実現することができました。それと、本を買ってくれた皆さんのおかげで、大成功に終わらせることができました。また、売上金はあしなが育英会寄付させていただきました。皆さん本当にありがとうございました。

これはカトリックの学校なので。廊下を歩いていても教会にいるような気分になります。図書館の方はいいですよ、入り口はいつてすぐ左に雑誌コーナーと貸し出し・返却カウンター。右手には階段があつて視聴覚ルームにつながっているのですが、その通路がそのままくると図書館の端までのびていて、そこにはまた階段があります。ちょうどこの視聴覚ルームの部分が中二階のようになっているわけです。一階のほうは真ん中で大きく分けていて、右が書架、左が読書スペースになっています。そして、図書館の奥には扉があつて、そこからは自習室に行く事出来ます。自習室は一部屋あり、席数はあわせて三千席というのでした。机は大きいので、椅子と椅子とのスペースもゆめに取られているので、快適に勉強が出来そうです。授業の課題学習やレポートの作成のためによく利用されているそうです。また蔵書は冊数約700冊といつて、さすが基本図書のほか、新しい

本もよく揃っていました。人気のある文庫本は回転式書架におさまっていて探すのもとても楽しそうです。あとここならではの特色としては、やはりカトリックの学校といつこともあつて、聖書を取り扱ったコーナーがあり、聖書がすらすらと並んでいる様は壮観でした。



小林聖心 図書委員の方々

図書委員研修会ではこれまで、図書委員を班分けした後、各グループごとにテーマが与えられ、それについて議論して行くという方法をとっていました。テーマは、たとえば「21世紀型の図書館について考える」だとか「図書館で問題になつてゐる」といったものがあり、話をしながら話し合ったことをまと

大きな問題でした。そこで今年は、集まって会議をしようというのではなく、みんなで壁新聞を作るという企画が行われました。これらどの学校の図書委員でも条件は同じです。研究会の目的である各図書館の向上を、共通の問題点を話し合うことではなく、図書委員の技術の研修によって達成しようというふうに自論見です。

研修会の模様 私の班は、閩西学院さん、山手女子高校さん、愛徳学院さん、親和女子高校さん、神港学院さん、そして今回の会場校である小林聖心女子高校さんというメンバーになりました。まず、すばやく自己紹介等をすませた後、どのような壁新聞を作ろうかと相談に入ります。この壁新聞、私たちに与えられているのは、紙とペン、そして私達が事前

に用意してきた、読書紹介文を書いた紙(5g)のみ。あとは私達がどのようになつていこうかというわけですね。班長兼司会・進行役を務めていらした、小林聖

心の方を中心に意見を集めようとしたが、なにぶん壁新聞といつてフィールド(図書委員にとってハット)と同じようなものなものです(の上でできることが多すぎたので、個々の意見も漠然として形にはなつてしまつてた。そこで班長の提案の元、まだ時間があるといつことではしばらく自分達の好きな本について語ろう、そしてこの壁新聞に自分達が好きなことを書くといつことになりました。「自分の好きな本について語る、これほど図書委員にとって得意なことはないでしょう。ここから私達の班は急にテンポがよくなり、思い思いのままにおしゃべりしてしまいました。年が近いこともあつてか、読んでいる本の守備範囲も重なっている部分が多く、今までの研修会でよくあつた、発言しない子がいるなんてことにはまったくありませんでした。

さて、その結果私達の班はどつたのかといつて、そのまましゃべりすぎて時間がなくなり、壁新聞作成時間の最

後の一秒までそれぞれ書きつづけるというはめに陥りました。集会場所に着いたときには、もうとつとくに他の班は集まっています。はるかしたです。

最後(壁新聞)の発表を見ましたが、とてもよくなりました。二二く壁新聞を作つた班、私達と同じようにおしゃべりをしすぎてしまつた班もいろいろあつて面白かったです。

こうして、今年の図書委員研修会を終えました。壁新聞を作ることがひとつ、壁新聞を通して、各学校の図書委員が話しているのですが、そのなかには、今までの会議形式で話してきたこともいくつか話題になつたこと。その多くは愚痴だったり、笑い話だったりするのですが、その案いなど思えるようなこともあつて大変参考になりました。図書委員が集まると本が図書館の話がでないと

いつかかもしれませんが、そついつ意味でも今年が良い研修会になつたと思ひました。

『本読んでどうするの?』

英語科 池田 英樹

「本を読んでどうするの?」

「むむ、何とも挑戦的なタイトルだろ。恐ろしく読書三昧の原稿にふさわしくないタイトルであることは確かだと思ふ。この読書三昧は恐らく活字離れと言われて久しい年代の諸君に、読書三昧の原稿を読んだ諸君の一人でも多くが、図書館に足を運ぶ、あるいは書店で本を手にとってみるこのよつなことが意図されている二つではないかと思ふが・・・原稿依頼に来てくれた 君は、このタイトルに吃驚したかもしれないので、この場をお借りして謝っております。

「いさなり堅い話になるけど、読書の目的(What)と理由(Why)は何でしようか? そんな事考えたこともないよ」と言いながら本が好きな人は何も言うことがありません。そんなことを考えたこともない、女性心

いく、本なんて全く興味がない、って言う人もいられるでしょう。理由はほいけ、What、Why、Howも大切だ個人的に思っています。このWhatとWhyは時間とともに変わっていてもいい、いやむしろ変わっていくのが普通じゃないかなとも思っています。例えば、本を読む目的は情報収集で、理由は女の子にもてら、と書いてあったら、まじょう。最初はメンズソックスなどの外見チェックから入るのが今時かな? でもそんな雑誌を読んで、悩み相談室の回答者の中に香山リカさんを見たまじょう、「神戸芸術大科全志の先生さ、精神科医なのか。ちょっとかな、って思い、そこから心理学にはまっています。あるいは、女性心

理を垣間見させて、安野モヨコさんのコミックを読んだら、ふとモヨコさんの旦那様が薄野秀明監督で気づき、そこから日本アニメにはまっています。その結果、今春刊行されるイノセンスというアニメ映画は、世界のアニメーターに多大な影響を与えたあの攻殻機動隊の押井守監督で、封切が待ち遠しいなんてなるかもしれません。こんな風に、最初のWhat、Whyがどんどん変化していくのが普通なんだと思えます。

「上で述べたwhat、how、whyは相互に結びついていきます。そして、刻々と変化する終わりのないサイクルだとも言えるかもしれませんが、疑問と不確実の状態(不均衡)から解決と確信(均衡)のサイクルが繰り返される。二つの例を言えば、「サブ&ポレ」で相手と二ニスをさせないの自分の二ニスタイルだ」と、(whatを決める)、そのために背筋力をまます鍛えよ(howを決める)。しかし、当然ながら背筋力だけが全てではないので、つまづかず、不均衡の状態へと移行する。不均衡の状態ではwhyを自問自答することになる。全国大会でベストに入るためにテ

二ニをし、決めたことは途中で諦めないと思える。そこでまたwhat、howを考え直す。自分は本当にサブ&ポレタイプなのか。サブの確実性を上げるには、フォームをビデオにとり修正してあげばいいのではないかと。二つの回答を見つけたので、均衡状態へと移行する。「このサイクルが延々と続くのです。スポーツを例に挙げると、音楽でも、読書でも同じことだと思えます。WhatとWhyに対する唯一絶対無二の答えは存在し得ないでしょう。存在すれば全てがそこに集約され、誰もがそれを行えば済むことになるから。Whyという漠然とした疑問を、より細かな疑問に変える過程において、自分で正しい疑問を問いつけることのほうが、答えや知識を獲得して蓄積するよりもより貴重なのだと思います。メタ認知で言えば素晴らしいと思えます。メタとはギリシャ語で「超える」という意味で、認知とは「推測・思考などに基いて事象の真の性質を知る過程」ですが、分かりやすく言

えは、自分で考えている過程を、もう一人の自分が、そのプロセスを自分で修正できることです。at how、whyのサイクルを、自分で管理できると言い換えられるかもしれない。ちよつと堅い話が続いたので、読書三昧の原稿らしく、私が最近読んだ本について書きます。史上最年少で二人の作家が芥川賞を受賞したのは記憶に新しいのではないのでしょうか。その時のニュースで、綿矢氏の表情というのが存在が、自己を消去したいという風に私には見えたのです。先に出版されたインストールが映画化されるのも知っていたので(主演女優は上戸彩ですが、決して私は上戸彩ファンではないので・・・念のため)受賞作の「蹴りたい背中」を読んでみました。人それぞれの読後感はあると思うけど、教師としてハツとさせられる表現が多くありました。「頭の尾っぽを振りながら、綿代は机を囲んで大騒ぎしている雑草の束の束へと走っていく。どうしてそんなに薄まりたがるんだろう。同じ溶液に浸かってくったり安心して、他人と飽和する」とは、そんなに心地よいもんなんだろうかと。「高校に入ってからというものが、何度笑いをこらえたことが。笑つて」とはゆるむつていことと、そして一人きりでゆるむのには並々ならぬ勇氣がいるものだ。「できれば部屋のドアを一番に開ける役目も輝きたい。万物を動かしたくないんだ。でもこんなふうには存在を消すために努力しているくせに、存在が完全に消えてしまっているのを確認するのは怖い。」「力強く言われて不覚にもしんときた。先生から目をそらしながら、泣きそうになる。やっぱり先生は嫌いだ。認めて欲しい。許して欲しい。櫛にからまった髪の毛一本一本取り除くように、私の心からみつく黒い筋を指でつまみ取って、「三箱に捨ててほしい。人にしてほしい」とはつかりなんだ。人によつてあげたことなんか、何一つ思い浮かばないけれど。」(綿矢りさ著 蹴りたい背中 河出書房新社)

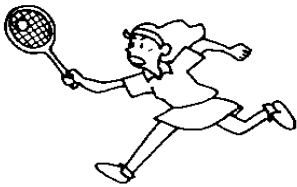
この本を読んだ後、私は高三のある生徒が卒業の「最後の一言」に、「自分の存在をなるべく消してきた自分に、自分をなるべく殺してきた自分に、よくカンパったと言いたい。」と書いて気持ち私の中にしみわたるような気がしました。生徒を見ていない自分に気がきき最初「蹴りたい背中」を読み始めたWhat & Whyが私の中で変化していったのです。

それが正しい読書とは問題ではないし、正しいとが正しくないとかを言えないかもしれませんが、ただ言えるのは、物事のネットワークが広がり多面的に見れるようになった。例えば、ガンダムSEEDでコーディネーター（遺伝子操作で高い知能と運動性を得たタイプの人種）とナチュラル（遺伝子操作をしていないタイプの人種）が出てきました。これを、「すばらしい新世界」といつ本の中で人工孵化技術により、胎児の段階から階級分けされて条件反射訓練をされる、ということが既に70年以上前にハックスリーによって述べられていた

のを知っていたらまた違った見方をするでしょう。また前教育課程審議会長の「浦喬氏が、エリート教育とはいかにいい時代だから回りくどく、ゆとり教育」と言ったただ、江崎玲於奈さんの言うような遺伝子診断の話は出なかったが、そういうことになっていくでしょう」と言い、その教育改革国民議会議長の江崎氏は「いずれは遺伝子検査を行い、それぞれの子供の遺伝情報に見合った教育をしていく形になってきますよ」（音藤 貴男著 機会不平等 文春文庫より）という事を知っていたら、またガンダムを違った見方で見れるでしょう。

甲南という学校が大切にしていて個性の尊重ですが、個性とは隠していても滲み出てくるものです。単なる外見ではありません。他人との関わりの中で、他人と自己との違いに気づき、自分を深く見つめること、そこから滲み出てくるものです。自分を深く見つめるため、現実に関わる他者との数をはるかに凌駕するのは、読書に他ならないの

ではないでしょうか。What & Whyを問い、Howを自己修正できる人は内面から個性がにじみ出てくるのではないでしょう。さて、長々と書いてきたけど、結局は本読んでみよっすのことに戻ってきますよ。What & Whyなんて、そんな邪魔くさくて考えなくてもいいよっていつももいるでしょう。でもやがて君たちは大人になり、子供に答えなくてはいけません。本を読まなくてもいいなら、その理由を明確に示すのが大人の責任です。大人になってから、邪魔くさいでは通用しません。今この時に、しっかりと読書のWhat & Whyに対して自問自答してください。自らのパラダイムを通して自らをメタ認知するため。



**本の紹介コーナー**  
読者オススメの本を紹介しします。それでは、生の声をどうぞ。

**半落ち** 横山秀夫 講談社  
「いまだに残る階級」という名の差別。それにひれ伏すあまた多数の人々。そしてそれらを照らす一人の男。この本は本物だ」  
さすらいのポエマー



**白い巨塔** 山田豊子 新潮文庫  
全部で5巻ある小説で、大病院の事をかいたもの。基本的には、医学の話だから、難しい言葉とか出てきてイヤになるかもしれないけど、この小説の一番重要なのはそんな所ではなく、患者が医者にお金を渡して特別に手術してもらったり、自分が教授になるためにお金を渡したりなんていう、人間の汚い部分をストレートに描いていることです。

はつきり言って恋愛物や冒険物が好きな人にはむいていないと思う。それでも読みたい人はどうぞ。



**「いま、会いにゆきます」** 市川拓司 小学館  
家族の愛が感じられるやさしい本です。

「海辺のカフカ」 村上春樹 新潮社  
14才の心の葛藤



僕のオススメ本  
『呪怨』  
中三A 富永 光則

僕の紹介する本はあまりに恐ろしい映像ゆえに、発禁寸前となった伝説のホラービデオ『呪怨』の小説です。僕は今まで、いろんなホラー小説を読んできましたが、ここまで怖い小説は久しぶりに読みました。  
…老人介護のボランティアをしている仁科理佳は寝たきりの老婆・幸枝の様子を見てきて欲しいと頼まれる。郊外の住宅地にあるその家の中は、悪臭が漂い、ゴミが散乱していた。理佳が人の気配を感じて一階に上がるとガムテープで封印された押入れが目に飛び込んできた。理佳は、恐る恐るガムテープを剥かし…  
ホラー小説を読みたいと思っ方にはオススメです。

